

感染症定期報告の報告状況(2006/1/1~2006/3/31)

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
1	2006/1/10	50807	株式会社ベネシス	人ハプトグロビン	人ハプトグロビン	人血液	非献血:米 国、献血:日 本	有効成分	有	無	無	パルボウイルス	Transfusion 2005; 45: 1011-1019	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
												A型肝炎	Transfusion 2005; 45: 1037-1038	ドイツのワクチン非接種の血液ドナー2人が、エジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査でHAV感染が確認された。このことより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。今回の事例の感染源は特定されていないが、宿泊したホテルの1つがヨーロッパ人旅行者のHAV感染300例以上の感染源であることが後に判明した。
												ウエストナイルウイルス	CDC/EID 2005; 11(8): 1294-1296	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
												A型肝炎	Transfusion 2005; 45: 1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-time RT-PCRキットが開発された。
												リケッチア症	衛生動物 2005; 56(Suppl): 57 (第 57回日本衛生動物 学会)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国においては極東アジアでの初確認例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005; 11(25): 3	カナダHema-QuebecはvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように数年前から実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発効する。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更される。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。
												レンサ球菌感染	ProMed 20050726-2169	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が、最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は約25%である。四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。
												白型肝炎	AABB Weekly Report 2005; 11(26): 4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、又は中和試験で確認されないが、繰り返しHBs抗原陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーは、最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBV DNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。
2	2006/1/12	50808	株式会社科薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			
3	2006/1/12	50809	株式会社科薬	トロンピン	トロンボプラスチン	ブタ肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			
4	2006/1/12	50810	ワイス株式会社	ケムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	無	無	無			
5	2006/1/12	50811	ワイス株式会社	ケムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトアグロプリン	ヒト血液	フィンランド、スウェーデン	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
6	2005/1/12	50812	ワイス株式会社	ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED 20050729-0080, 20050805-0030, 20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050	米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。
												炭疽	ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
												BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
7	2006/1/12	50813	ワイス株式会社	ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED 20050729-0080, 20050805-0030, 20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050	米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。
												炭疽	ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
												BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
8	2006/1/12	50814	ワイス株式会社	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	加水分解カゼイン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED 20050729-0080,20050805-0030,20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050	米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。
												炭疽	ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
												BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
9	2006/1/12	50815	ワイス株式会社	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED 20050729-0080,20050805-0030,20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050	米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。
												炭疽	ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
												BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要	
10	2006/1/12	50816	ワイズ株式会社	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED 20050729-0080, 20050805-0030, 20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050	米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。	
												炭疽	ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。	
												BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。	
11	2006/1/12	50817	ワイズ株式会社	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無				
12	2006/1/12	50818	ワイズ株式会社	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	マウス骨髓腫由来NS0細胞	マウス骨髓腫	不明	製造工程	無	無	無				
13	2006/1/12	50819	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	トリインフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。	
14	2006/1/16	50820	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	スルホ化人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国(ベロニン)、日本(献血ベロニン-I)	有効成分	有	有	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 (2005年5月26日)	2005年5月米国で、同一ドナー由来の臓器移植患者4名が、移植後、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)に感染した痕跡があり、そのうち3名が死亡した。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器が移植された場合には重篤な症例になることが示唆された。	

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会 2005年6月1-3日	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否かが精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
												HIV感染、C型肝炎	FDA/CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月、米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリーする。
												ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
15	2006/1/16	50821	日立化成工業株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	リケッチア症	第57回日本衛生動物学会 衛生動物 56(S):57	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否かが精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
												リケッチア症	第57回日本衛生動物学会 衛生動物 56(S):57	2004年8月に徳島県で日本紅斑熱患者の飼犬からリケッチア感染が確認された。
												インフルエンザ	IDWR Japan(感染症週報) 2005年第27週	インフルエンザの定点医療機関からの発生報告数は、第20週以降減少が続いていたが、第27週になって712(定点あたり報告数0.15)と増加した。
												インフルエンザ	IDWR Japan(感染症週報) 2005年第35週	インフルエンザの定点医療機関からの定点あたりの発生報告数は、0.024と2005年第1週以降では最小を記録している。例年第35~36週前後に最低となることが多く、本年も例年と同様に発生数が最も減少する時期と考えられる。しかしながら、2005年第35週の定点あたり報告数は、過去5年間の同時期と比較すると最も高い値となっている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。
												マイコプラズマ肺炎	IDWR Japan(感染症週報) 2005年第39週	マイコプラズマ肺炎は通年性に発生がみられるが、過去5年間では冬季にピークが見られ、またこの3年間では夏季にも小さなピークがみられている。2005年では過去5年間の同時期と比較して常にその平均値を越える状態が続いており、39週現在の累積報告数は、2000年以降では最高値となっている。
												日本脳炎	臨床血液 2005; 46(8): 910 第9回日本ワクチン学会学術集会 要旨集	2004年4月28日から5月27日、日本脳炎ウイルス関与が強く示唆される血球貪食症候群6例が広島県のある地域で発生した。日本脳炎ウイルスに関与したウイルス関連血球貪食症候群の報告は初めてである。
												マイコプラズマ肺炎	IDWR Japan(感染症週報) 2005年第40週	マイコプラズマ肺炎の第40週の定点あたり報告数は2週連続して増加し、0.37となったが、2005年第1週以降では最高値となり、また過去6年間の同週との比較でも最も多かった。
												ウエストナイルウイルス	IDWR Japan(感染症週報) 2005年第40週	米国ロサンゼルスにおいて蚊に刺された30歳代男性が2005年9月5日に帰国した。帰国前より倦怠感があり、9月5日から発疹、頭痛、発熱(38.3℃)、腰痛の症状を呈し近医を受信したが症状が改善せず、病院を受診した。ウエストナイルウイルスIgM抗体検査や中和試験、その他の検査の結果、ウエストナイル熱と診断された。
												ウイルス感染	Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434	2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒト-ヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
16	2006/1/20	50822	ヤンセンファーマ株式会社	ムロモナブ-CD3	ムロモナブ-CD3	マウス腹水		有効成分	無	無	有			
17	2006/1/23	50823	富士製薬工業株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	更年期婦人の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005; 10(6)	ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005; 10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ヘクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。
18	2006/1/23	50824	富士製薬工業株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	更年期婦人の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005; 10(6)	ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005; 10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ヘクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。
19	2006/1/23	50825	富士製薬工業株式会社	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国、ブラジル	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
20	2006/1/23	50826	三菱ウェルファーマ株式会社	アプロチニン製剤	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
21	2006/1/23	50827	味の素株式会社	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	ブラジル	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第32週	中国で流行しているブタレンサ球菌感染は8月5日以降新規患者はないと中国衛生部は報告している。ブタのインフルエンザウイルスとニパウイルスの可能性は検査により否定されている。
22	2006/1/23	50828	持田製薬株式会社	日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液	日局 ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス	有効成分	無	無	無			
23	2006/1/23	50829	持田製薬株式会社	インターフェロン ベータ	トリブシン	ブタ膵臓	-	製造工程	無	無	無			
24	2006/1/23	50830	持田製薬株式会社	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
25	2006/1/23	50831	持田製薬株式会社	インターフェロン アルファ(BALL-1)	インターフェロンアルファ(BALL-1)	ヒトリンパ芽球細胞	日本	有効成分	無	無	無			
26	2006/1/23	50832	持田製薬株式会社	インターフェロン ベータ	インターフェロンベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
27	2006/1/23	50833	持田製薬株式会社	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウサギ抗血清	ウサギ血液	米国	製造工程	無	無	無			
28	2006/1/23	50834	持田製薬株式会社	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ハムスターの皮下で増殖させたヒトリンパ芽球細胞	ハムスター	日本	製造工程	無	無	無			
29	2006/1/23	50835	持田製薬株式会社	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
30	2006/1/23	50836	持田製薬株式会社	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ胎仔血清	ウシ胎仔血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
31	2006/1/23	50837	持田製薬株式会社	インターフェロン アルファ(BALL-1)	マウスハイブリドーマ由来モノクロナール抗体	マウス脾臓	英国	製造工程	無	無	無			
32	2006/1/23	50838	持田製薬株式会社	インターフェロン ベータ	インスリン	ウシ脾臓	米国	製造工程	無	無	無			
33	2006/1/23	50839	アステラス製薬株式会社	バミテプラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED 20050704-0040	ポルトガルにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の可能性例が報告された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20050802-0060	スペインにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(疑い)による死亡例が報告された。
												炭疽	ProMed 20050808-0020	中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。
												結核	IASR 2005; 26: 225	ニューヨーク市で2001~2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。
												感染	ProMed 20051012-0010	南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。
												炭疽	ProMED 20051121-0020	ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005; 11(41)	米国における2例目の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が報告された。
34	2006/1/23	50840	アステラス製薬株式会社	バミテプラーゼ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED 20050704-0040	ポルトガルにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の可能性例が報告された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20050802-0060	スペインにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(疑い)による死亡例が報告された。
												炭疽	ProMed 20050808-0020	中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。
												結核	IASR 2005; 26: 225	ニューヨーク市で2001～2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。
												感染	ProMed 20051012-0010	南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。
												炭疽	ProMED 20051121-0020	ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005; 11(41)	米国における2例目の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が報告された。
35	2006/1/23	50841	アステラス製薬株式会社	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ臓	オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED 20050704-0040	ポルトガルにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の可能性例が報告された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20050802-0060	スペインにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(疑い)による死亡例が報告された。
												炭疽	ProMed 20050808-0020	中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。
												結核	IASR 2005; 26: 225	ニューヨーク市で2001～2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。
												感染	ProMed 20051012-0010	南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED 20051121-0020	ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005; 11(41)	米国における2例目の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が報告された。
36	2006/1/23	50842	アステラス製薬株式会社	バミテプラゼ(遺伝子組換え)	CHO細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	該当しない	製造工程	無	無	無			
37	2006/1/25	50843	ゼリア新薬工業株式会社	結核菌熱水抽出物	全卵液	全卵液	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年7月21日	インドネシアでトリインフルエンザによるはじめての死亡例が確定した。
												トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。
38	2006/1/25	50844	ゼリア新薬工業株式会社	結核菌熱水抽出物	結核菌熱水抽出物	Z-100原液	日本	有効成分	無	無	無			
39	2006/1/25	50845	ノボノルディスクファーマ株式会社	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	該当しない	有効成分	無	無	無			
40	2006/1/25	50846	ノボノルディスクファーマ株式会社	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ウシ新生仔血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
41	2006/1/25	50847	ノボノルディスクファーマ株式会社	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ブタ膵臓由来トリプシン	ブタ膵臓(抽出物)	該当しない	製造工程	無	無	無			
42	2006/1/25	50848	ノボノルディスクファーマ株式会社	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血液	ニュージーランド、米国又はカナダ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
43	2006/1/26	50849	日本オルガノン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン① 胎盤性性腺刺激ホルモン②	①下垂体性性腺刺激ホルモン、②胎盤性性腺刺激ホルモン	①更年期婦人尿、②妊婦尿	オランダ	有効成分	無	無	無			
44	2006/1/26	50850	日本製薬株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子複合体	血液凝固第Ⅷ因子複合体	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry June 2005 http://www.fda.gov/cber/gdlns/wnvguid.pdf	2005年6月米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)は、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案した。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Press Release 07/12/2005 http://www.hema-quebec.qc.ca/anglais/centredepression/coms2005/20050706.htm	カナダHema-QuebecはvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように数年前から実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発効する。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更される。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0256 2005年7月20日	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJDキャリアの可能性があるので、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
												E型肝炎	CDR Weekly 2005:15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があつた。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service http://www.bloodservices.ca/CentreApps/Internet/UW_V5_02_MainEngine.nsf/web/	カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不適格期間の短縮を決定した。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
45	2006/1/26	50851	ZLBベリング株式会社	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			
46	2006/1/26	50852	ZLBベリング株式会社	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	バルボウィルス	Transfusion 2005; 45: 1003-1010	血液製剤におけるヒトバルボウィルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。